

くにしていしせき 大野台支石墓群

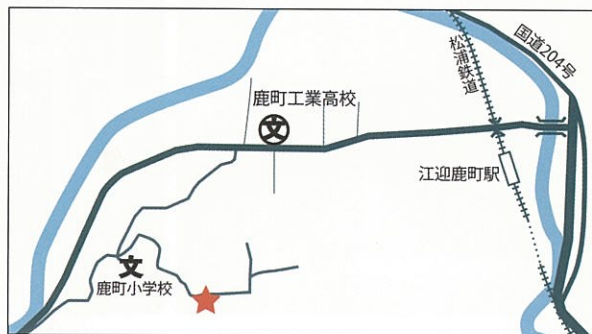


大野台支石墓群は、江迎湾に注ぐ鹿町川南岸、標高70~80mの台地上にあります。「支石墓」とは中国大陸や朝鮮半島から伝わった墳墓の一種で、箱式石棺等に遺体を埋葬し、その上にテーブルのような大きな石(上石)を乗せ、その上石を数個の石で支える様子から名付けられました。

支石墓は縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて作られた墳墓で、長崎県や佐賀県、福岡県などの西北九州を中心に分布し、群をなすという特徴があります。

【見学のお知らせ】
常時開放されています。

◆問合せ先
佐世保市教育委員会
社会教育課
TEL(0956)24-1111



発掘調査時の大野台支石墓群



発掘状況

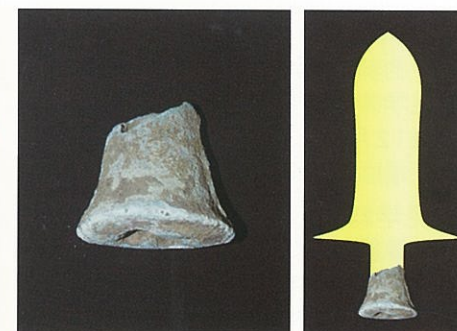


大野台支石墓群の規模は、原山支石墓群(国史跡・南島原市北有馬町)とともに国内最大級を誇ります。かつては80基以上が存在していたと推定されていますが、現在は保存状態の良い2群46基が国の史跡に指定されています。

大野台支石墓群は、昭和57~58年(1982~83)に行われた発掘調査の結果、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて形成されたことがわかっており、墳墓群の推移を考えるうえで重要な遺跡といえます。出土遺物の中には福岡方面で作られたと考えられる広形銅鉞の着柄部もあり、人々の交流を考える上で、貴重な資料となっています。



「支石墓」



大野台支石墓群出土の銅矛(左)と
銅矛復元予想図(右)